

帶有複句結構之副詞的幾個特徵 —以「せっかく」與「ただでさえ」為例—

林恒立

北海道大學 博士班

摘要

「せっかく」與「ただでさえ」兩個副詞的語意雖迥然不同，但我們可以從兩者的構式裡觀察到下列幾個共通特徵。

- 1) 兩者都必須帶有複句結構，並且與一些出現在從屬子句句末的接續助詞如「のに」、「(の) だから」有強烈的共現關係。
- 2) 兩者都與事態（命題 P）的「既定性」（Settledness）有深切的關聯，所以與「假定性」互不相容。也因此兩者都無法出現在假定條件句（「たら」、「ば」、「と」節）裡。（至於「せっかく」可以出現在既定條件句（「なら」節）裡。）
- 3) 上述的複句結構有時會以單句的形式出現，乍看之下雖看似單句，但實際上都是從複句結構壓縮而來。而這些單句不僅皆必須搭配上下文，以維持完整前後語意關係，並且也必須是可以還原成複句結構的。

本文透過文獻回顧，整理、對比兩個副詞特徵裡的共通點（以及共通點裡的細微差異），盼可作為今後選定、分析其他帶有相同特徵的副詞時的一種參考。

關鍵詞：「せっかく」、「ただでさえ」、複句結構、既定性

受理日期：2014.08.29

通過日期：2014.10.24

Japanese Adverbs that Occur Only in Complex Sentences: Comparing *Sekkaku* and *Tadadesae*

LIN Hengli

Ph.D. student, Hokkaido University

Abstract

This paper investigates some syntactic and semantic similarities and differences between “sekkaku” and “tadadesae”. The conclusions drawn are as follows.

- a) Both of them should be used in complex sentence structures. They are also in a strong co-occurrence relationship with some conjunctions such as “noni”, “(no)dakara” that show in the end of the subordinate clauses.
- b) They require "accomplished states" — "settledness", therefore, they cannot occur in subjunctive or conditional clauses such as “tara” clause, “ba” clause, and “to” clause. Besides "nara" clause.
- c) The complex sentence structures with these adverbs can reduce to independent clauses or incomplete sentences without inducing any change in their meaning.

Keywords: “Sekkaku”, “Tadadesae”, Complex sentences structures, Settledness

複文の構造を要求する副詞の特徴 —「せっかく」と「ただでさえ」を例に—

林 恒立

北海道大学大学院 博士後期課程

要旨

「せっかく」と「ただでさえ」は語彙的意味が全く異なっているものの、構文的特徴において、次のような共通点が観察される。

- 1) いずれも複文の構造を要求し、従属節末に現れる「のに」や「(の) だから」などの接続助詞や接続表現と強い共起関係にある。
- 2) いずれも事態（命題 P）の「既定性」（Settledness）と深く関わっていて、「仮定性」と相容れない。そのため、いずれも仮設条件を表わす「たら」「ば」「と」節では使用できない。（ただし、「せっかく」は既定条件を表わす「なら」節では使用できる。）
- 3) 上記の複文の構造は、しばしば複文の構造が圧縮され、見せかけの単文になることがある。しかしながら、前後の文脈で意味的要請が満たされ、かつ複文の構造に復元可能でなければならない。

先行研究に基づいて、この二つの副詞の記述の比較・対照の作業を通して、共通する特徴を持つと思われる副詞群の定義と位置づけを図るための基礎的試論を行なうのが本稿の目的である。

キーワード：せっかく、ただでさえ、複文の構造、既定性

複文の構造を要求する副詞の特徴 —「せっかく」と「たださえ」を例に—

林 恒立

北海道大学大学院 博士後期課程

1. はじめに：本稿の目的

渡辺（1980）によれば、「日本語の『副詞』（と思われるもの）の中に、『叙述内容（述語によってまとめられる対象的事態の内容）』の知的内容量に何らかの増減の影響を及ぼすことなく、叙述内容に対する話者の評価を表わす、という性質を持つ一群のものがある（p. 32）」¹。具体的には、「せっかく」「まさか」「いっそ」「せめて」「なまじ」などが挙げられる。上述の副詞は、意味（語彙的意味）がそれぞれ異なっているものの、『話者の評価』を表わす、という意味的特徴をもつ（p. 33）」ところが共通している。

また、蓮沼（1987）は、「日本語の副詞の中には、外国語に翻訳しようとしても、対応する表現が見つけないばかりでなく、日本語の類義表現による言いかえによっても、そのニュアンスを正確に表しえないような、複雑な用法をもつ一群がある（p. 203）」ことを、「せっかく」「さすがに」「どうせ」を例に論じている。

上述の一群の副詞の中、とりわけ「せっかく」が、その意味論的・構文論的特異性から、多くの注目を集め、これまでの研究で論じられている。しかしながら、「せっかく」のケーススタディにとどまる傾向があり、その一群の全貌（他にどのような副詞があるのか）もまだ明らかにされていない。

¹ 渡辺（1980）はこれらの副詞を「『せっかく・まさか・いっそ・せめて』の類」または「『せっかく・まさか』の類」としているが、従来の「情態副詞」「陳述副詞」「程度副詞」のカテゴリーとは別に「『見越しの評価』の副詞」をどう選定し、そのカテゴリーをどう位置づけるべきかに関しては渡辺（1980）は述べていない。「見越しの評価」という用語を全面的に使用する先行研究も渡辺（1980）のみである。加藤（2001）が述べているように、「この『見越しの評価』という考え方は、日本語の『せっかく』をはじめ『なまじ』『まさか』などの話し手の評価・心情を表す副詞を考える時にも有効である（p. 26）」。

林 (2010, 2013a) は、「ただでさえ」の意味・用法について考察し記述した。その結果、「ただでさえ」の副詞としての位置づけを図るためには、「ただでさえ」の特徴と性質に類似している他の副詞を見つける必要があるということが明らかになった。そこで、本稿では、「せっかく」と「ただでさえ」を比較・対照という方法を用いて、両者が共有している特徴と性質をより明確にすることを試みる²。

本稿の構成は、次の通りである。まず、1 節で本稿の目的を説明する。次に、2 節で「せっかく」と「ただでさえ」のこれまでの先行研究の流れをレビューし、なぜ両者を取り上げる（「ただでさえ」を「せっかく」と比較対照する）のかについて、その理由と必要性を述べる。3 節で「せっかく」の特徴について述べ、4 節で「ただでさえ」の特徴を「せっかく」と比較する。5 節で両者に見られる相違点を整理し、その性質を考察する。最後に 6 節で今後の課題について述べる。

2. これまでの先行研究の流れ

2.1 「せっかく」をめぐる

前節でも触れたが、「せっかく」は、これまで、その特殊かつ複雑な振る舞いから、多くの研究者の間で議論されてきた。最初の頃、「せっかく」という「表現」は日本人の論理構造（板坂 1971）の問題として捉えられていた。「せっかく」を副詞（副用語）と見なし、「せっかく」と話者の期待や評価、事態の価値や実現などに関する意味論的問題や、「せっかく」が単文に現れにくいという構文論的問題について最初に言語学的研究で解決を試みたのは渡辺（1980）で

² 2013 年 11 月 30 日に行なわれた、東呉大学日本語文学系・台湾日語教育学会共催 2013 年度国際学術シンポジウム大会論文集に収録された拙稿（2013b:47）の要旨では、「『ただでさえ』は『せっかく』と意味も異なれば、『せっかく』と同じように話者の『見越し』の評価も表さないものの、『せっかく』が持っている（と考えられる）性質や特徴との類似性が観察された（p.47）」とあるが、本稿では、「ただでさえ」が「『見越し』の評価」を表すか否かに関して今後の課題としたうえで、両副詞間の「話者の評価」（意味的特徴）および「複文の構造」（構文的特徴）における共通点に着目し、「『見越し』の評価」を「話者の評価」のサブカテゴリーと捉える。

ある。その後、「せっかく」の文法研究が進められ、構文構造（石神 1982）、意味用法の記述（森田 1989）、「叙法副詞」や「ムード副詞」と呼ばれる「せっかく」と「さすが」の共通の特徴の比較（蓮沼 1987）、類義表現「どうせ」との比較（星野 2001）、話者の前提と従属節に生起する「『せっかく』類」の副詞との関係（西 2005）、外国語との対照（呉 2011）、さらに実例に基づいた考察（小矢野 1997、黄 2010、蓮沼 2012）などの研究がある。特に、小矢野（1997）と蓮沼（2012）は、内省では解決できなかった問題を、新聞（小矢野 1997）やコーパスデータ（蓮沼 2012）から、実例に基づいて解決を試み、従来の先行研究で内省によって得られた結果と、実例の調査や考察で得られた結果との違いを提示している。なお、日本語教育現場を意識した研究には、例えば「せっかく」の導入方法や「わざわざ」との違い（河原崎 1976）、日本語学習者の誤用の背景（加藤 2001）、語用論的分析（赤羽根 2002）、認知言語学的分析（山本 2005）などがあり、さまざまな問題意識とそれぞれの目的に合ったアプローチによって研究が行なわれてきた。しかし、「せっかく」の個別の記述に留まったり、他の副詞ないしは表現との違いの指摘で終わったりしている。

2.2 「ただでさえ」について

「ただでさえ」に関しては、辞書での記述は散見されるものの、これまで議論されてこなかった。一般の国語辞典と異なり、例えば『日本語文型辞典』（グループ・ジャマシイ 1998）、『日本語を学ぶ人の辞典』（阪田・遠藤・にほんごの会 2011）、『現代副詞用法辞典』（飛田・浅田 2014）では、「ただでさえ」の意味用法の説明・解説だけでなく、日本語教師と日本語学習者向けに例文も分かりやすく提示されている。日本語文型辞典では、「順接用法」と「逆接用法」に当て嵌まる例文二文が紹介され、一方、日本語を学ぶ人の辞典では「圧縮用法」に当て嵌まる例文一文のみ紹介され、文型の種類が限られている。現代副詞用法辞典での解説は詳細で例文も多様だが、実際の使われ方との違いが見られ、議論する余地がある。

林（2010, 2013a）は、「ただでさえ」と「ただ」「さえ」の相違に着目し、多くの実例を用いて分析した結果、「ただでさえ」は「ただ」と「さえ」によって構成されている（と考えられる）ものの、それぞれの本来の意味とかけ離れているだけではなく、本来の用法とも異なっていて、副詞として独特な性質を持っていることが分かった。

2.3 本節のまとめ

1 節の冒頭でも触れたが、「せっかく」と「ただでさえ」は、意味（語彙的意味）が異なっているものの、『話者の評価』を表わす、という意味的特徴をもつ（渡辺 1980：33）」という点と、それぞれ独特な性質を持っているという点において、「せっかく」と「ただでさえ」は共通しているように思われる。

また、本稿で後述するが、両者は命題（前件と後件の関係）、命題における述語の意味的制限、「従属節—主節」という複文の構造をとる点、従属節末に現れる接続助詞（接続表現）の種類などからも、さまざまな共通点が観察される。

しかしながら、これまで両者の共通点に関する指摘もなければ、「ただでさえ」の適切な位置づけを行なう研究もない。

加えて、「せっかく」の研究は、「わざわざ」「どうせ」との比較・対照にこれまで重点が置かれてきた。意味に注目した類義語・類義表現の研究はもちろん重要だが、例えば蓮沼（1987）による「せっかく」と「さすがに」の比較・対照の研究のように、意味的特徴、語用的特徴とともに構文的特徴に注目した研究も重要である。

そこで、本稿では、先行研究を踏まえて、両者を比較・対照し、共通点を中心に明らかにすることを試みる³。

³ 「せっかく」と「さすがに」を取り上げた蓮沼（1987）の言葉を借りると、「この二つを特に並べてとりあげる強い理由はないが、強いていえば、一群の副詞とはいっても、両者の個性が互いにどれほどに異なるかを浮彫りにし対照的に示す（p. 205）」のに意義があり、「共通の特徴としては、順接、逆接の接続表現で用いられるという文型上の特性に加え、評価をめぐる社会通念を前提とする用法を有するという点があげられる（p. 218）」しかしながら、「両者の担う統語・意義論的機能は明らかに異なっている（p. 218）」「ただ語のレベル

次節から、「せっかく」と「ただでさえ」のこれまでの先行研究に基いて、それぞれの特徴を取り上げた後で（3、4節）、両者の共通点を考察し分析する（5節）。渡辺（1980）、蓮沼（1987）で言われている「『見越し』の評価」を表わす副詞の一群および「複雑な用法をもつ一群の副詞⁴」の全貌（ないし種類）はまだ明らかにされていないものの、「ただでさえ」もその一群の副詞の中の候補の一つであることを論じ、総合的に「せっかく」と「ただでさえ」の類の副詞の特徴を整理し記述厚みを与える。そうすることで、上述の「一群の副詞」をより厳密に定義し、その全体像をより明確な形にする時のための基礎的研究となることが期待できる。

3. 先行研究に基づく「せっかく」の特徴の整理

3.1 意味的特徴

「せっかく」は「実現の困難な事態、もしくはめったに生じない事態、かけがえのない事態、価値ある事態などが実現して、その事態を有効に利用しようとするとき、もしくは、残念ながら利用できないときなどに用い（森田 1989：585）」、「話し手にとって価値ある事態と受け止められている。好ましくないと受け止めている事柄の場合には『せっかく』を使うことはできない（森田 1989:586-587)」。渡辺（1980, 2001）によると、「せっかく」は話者の「『見越し』の評価」を表わし、「話(し)手⁵にとって価値ある P が実現し、それに伴って実現して P の価値を完全なものにすることを期待される Q を、P の延長線上に見越す言葉（渡辺 2001：32）」である。「せっかく」が表わしているのは、「B が随伴的に成立するという期待と、その B がまだ実現せず或いは遂に実現しなかったという現実を前提として、

で論じたのでは、その全体像をとらえることができない（p.220）」。本稿では「さすがに」の代わりに「せっかく」と「ただでさえ」の比較対照をきっかけにして、他の類似の特徴を持つと思われる副詞の一群の位置づけを図っていきたい。

⁴ 渡辺（1980：32）と蓮沼（1987：203）で言われている「一群の副詞」は本稿の1節で引用しているように、それぞれ異なる部分もある。

⁵ 原文での表記は「話手」である。

B を随伴的に成立させる可能性を持ち或いは持っていたはずの事態 A を、価値ありと認める話者の評価（渡辺 1980：37）⁶」である。

上述の意味的特徴は蓮沼（1987）による「価値評価の第一原理⁷」「価値顕現義務の原則⁸」からも説明できる。後件の部分に関しては、渡辺（2001）によれば、「話手（話し手）にとって価値のある P が実現しているのに、それに伴って実現して P の価値を完全なものにすることの期待される Q が、まだ実現せず、あるいはついに実現せずじまいとなり、P の価値が不完全に終ることへの、惜しみの気持ち（p. 34）」を表わしている。例文（1a-b）が示すように、後件が過去の「『実現済み』の事態」の場合、すべて非文であるのに対し、後件が「『未実現』の事態」や、これから「『実現が期待される』事態」に戻せば自然な文になる（例文 2a-b）。

- (1) a. *せっかく雨が止んだのだから、急いで出発しました。
b. *せっかく得意の料理を作ったので、彼は喜んで食べてくれた。（以上、渡辺 2001：33、下線は林による）
- (2) a. せっかく雨が止んだのだから、今からでも出かけようよ。
b. せっかく得意の料理を作ったのに、彼は食べずに帰ってしまった。（以上、渡辺 2001：32-34、下線は林による）

このように、「せっかく」構文は、前件のみで完結することができず、後件との意味的組み合わせが必要である。

3.2 構文的特徴

3.2.1 複文の構造

渡辺（1980, 2001）によると、命題 P（A）と Q（B）の意味的対応関係を表わすには、基本的に次の形式をとる必要がある。

せっかく P なのに Q でない

せっかく P だから Q しよう（渡辺 2001：29）

⁶ 「B」は命題 Q に、「A」は命題 P に置き換えることができる。

⁷ 「それ自体『価値あり』と評価しうる事態も、人間がその価値の発揮、有効利用をはからない限り、ゼロに等しいか、時にはマイナスに転落さえしてしまうもの（蓮沼 1987：207）」である。

⁸ 「潜在価値は顕現させなければならない（蓮沼 1987：207）」という「我々の行動を規制するような、当為的な力（蓮沼 1987：208）」であり、この原則に基づいて「利用価値を最大限に実現させなければならないという自らの義務を課するような判断を行う（蓮沼 1987：208）」。

この二種類の形式を観察すると分かるように、文の中に P と Q という二つの命題が含まれ、P と Q の二つの命題は、「(な) のに」や「(だ) から」によって前件と後件の論理関係が明確になる。なお、上述の形式はいずれも単文ではなく、複文の形式である。「せっかく」は単文では用いられにくく⁹、複文の構造に用いられる（例文 3a, b, 4a, b）というこの制限は、先行研究で議論されてきた。ただし、複文の構造を要求するとはいえ、「せっかく」は従属節に生起するのみで、主節には生起することができない（例文 5a, b）。

- (3) a. *せっかく 彼が帰った。
 b. *せっかく 桜の花が咲いた。
- (4) a. せっかく 彼が帰ったのだから、あとは我々で思う存分
 楽しくやろうよ。
 b. せっかく 桜の花が咲いたのに、一晩で散ってしまった。
 (蓮沼 1987 : 205)
- (5) a. *彼が帰ったのだから、あとはせっかく 我々で思う存分
 楽しくやろうよ。
 b. *桜の花が咲いたのに、せっかく 一晩で散ってしまった。
 (蓮沼 1987 : 205 より改変。例文判断はネイティブチェック済み)

蓮沼 (1987) は、「せっかく」の用法を文型の特徴から、次のように順接用法、逆接用法、圧縮用法の三つに分けている。

- (順接用法) セッカク P $\left\{ \begin{array}{l} \text{ノダカラ} \\ \text{(ノ) ナラ} \\ \text{ノ／コトダシ etc} \end{array} \right\} Q$ (蓮沼 1987 : 208)
- (逆接用法) セッカク P $\left\{ \begin{array}{l} \text{ケレドモ／ガ} \\ \text{ノニ} \\ \text{テモ} \end{array} \right\} Q$ (蓮沼 1987 : 210)

(圧縮用法)¹⁰

- i せっかく 連体句 + N + 助詞 Q
 ii せっかくの N + 助詞 Q
 iii せっかくだ／ですから Q
 iv せっかくだ／ですが・けれども Q (蓮沼 1987 : 211)

⁹ 渡辺 (1980 : 35) によれば、近世の日本語に、例えば、「せっかく習へ。」
 「せっかく勉強するように。」といった「せっかく…せよ」の形は、古体として扱ってよい。小矢野 (1997) も「折角丹誠してくれやて、云ったら何んでも眼をうるましたようだった」のような例文を「旧用法」と呼んでいる。

¹⁰ 蓮沼 (1987) によれば、渡辺 (1980) の「圧縮表現」に由来している。なお、上記 (i、ii、iii) は順接用法に復元することができ、(i、ii、iv) は逆接用法に復元することができる。

小矢野（1997）は、新聞、小説から実例を収集し、「せっかく」の構文的環境をまとめている¹¹。大別すると、「連体的なつきそい・あわせ文に使用されるばあい」と「連用的なつきそい・あわせ文に使用されるばあい」とがあり、それぞれ「うらめ（逆接）の関係が読みとれるもの」「まさめ（順接）の関係が読みとれるもの」「うらめ・まさめ両方に解釈できるもの」とがある。さらに「連用的なつきそい・あわせ文」の場合、「圧縮表現」の例がある¹²。

上記の分類は、ところどころ異なる部分もあるが、「せっかく」と複文の構造との関係が明示され、「順接」「逆接」「圧縮」という三つの用法があることが確認できる。

3.2.2 「せっかく」の圧縮用法について一見せかけの単文

「せっかく」の「従属節—主節」の複文の構造が、しばしば単文の構造に圧縮され（渡辺 1980, 蓮沼 1987）、連体修飾節の形をとる場合がある。特に新聞（例文 6a-c）や小説（6d）などのような文体や、冗長な談話（6e、国会会議録¹³）の場合に観察される。

- (6) a. 同市産業振興課商工観光班は「せっかく作っていただいたキャラクター。キャラ総選挙を通じて認知度を少しでも上げたい」としている。（読売新聞 2014. 5. 4）
- b. レノボ・ジャパンは、今後もさまざまな業界・企業と協業して、「PC+」でタブレット端末の利用提案に力を注いでいくという。せっかく手に入れたタブレット端末。ぜひともフル活用してほしい。（読売新聞 2014. 4. 28）
- c. せっかく泡立てたメレンゲをつぶさないように。（読売新聞 2013. 7. 4）
- d. せっかく大事にしている野菜を枯らしてしまうものもあるくらいです。（芥川龍之介「不思議な島」）
- e. ただ、新たな課題が出てまいりました。それは、せっかく元気になった高齢者が引き続き介護予防に努めるそのためには受皿が必要になります。（国会会議録 2014. 6. 10）

¹¹ 構文的環境の一覧の詳細は、小矢野（1997）まで参照のこと。

¹² 小矢野（1997）によれば、「『せっかくの』の形をとる規定語になるばあい」を除く。したがって、小矢野（1997）で言う「圧縮表現」は、蓮沼（1987）の「圧縮用法」の i、iii、iv に当て嵌まる。

¹³ 国会会議録のデータベースにおける文字起こしデータは、細かい部分で実際の発言と異なる場合がある。

上記の例文は、接続助詞「のに」「(の) だから」や他の接続表現は現れていないが、句読点(6a, b, e)もしくは助詞(6c, d)を境に、前件と後件の間の意味的対応関係がはっきりしている。また、例文(6' a-e)のように、すべて複文の構造に復元することができる。

- (6') a. せっかくキャラクターを作っていたのだから、キャラ総選挙を通じて認知度を少しでも上げたい。
b. せっかくタブレット端末を手に入れたのだから、ぜひともフル活用してほしい。
c. せっかくメレンゲを泡立てたのだから、つぶさないように。
d. 野菜をせっかく大事にしているのに、枯らしてしまうものもあるくらいです。
e. せっかく高齢者(の方)が元気になったのだから、引き続き介護予防に努めるためには受皿が必要になります。
(以上、例文 6a-e より改変)

3.3 従属節の意味的特徴

3.3.1 接続助詞・接続表現の形式の種類

前節で見てきたように、「せっかく」は複文の構造を要求する。特に「順接用法」「逆接用法」の場合、「せっかく」が従属節末に現れる「(の) だから」「のに」との共起が観察される。

小矢野(1997)の調査を見ると、「せっかく」の用例 458 件のうち、「のに」が 100 件であるのに対して「のだから」類が 75 件¹⁴であり、順接の「(の) だから」との共起例が多かった¹⁵。一方、蓮沼(2012)では、1456 件のうち、「のに」が 229 件であるのに対し、「(の) だから」が 243 件で、逆接の「のに」との共起の頻度が高かった¹⁶。

¹⁴ うち「のだから」が 62 件、「のだからと」が 8 件、「から」が 3 件、「ので」が 2 件を含むという計算。

¹⁵ 小矢野(1997)は、新聞、小説から実例を収集し考察している。合計 458 例のうち、連体的なつきそい・あわせ文での使用例が 143 例(31.2%)、連用的なつきそい・あわせ文での使用例が 315 例(68.8%)と考察している。458 例のうち、うらめ(逆接)の関係が読みとれる例が 298 例(65.1%)で最も多く、298 例のうち 100 例が「のに」と共起している。まさめ(順接)の関係が読みとれる例が 151 例(33.0%)であり、151 例のうち、「のだから」が 62 例、「のだからと」が 8 例、「から」が 3 例、「ので」が 2 例である。うらめ、まさめ両方の解釈ができる例が 6 例(1.3%)、旧用法(折角+命令・働きかけの用法)が 3 例(0.7%)であった。

¹⁶ 蓮沼(2012)は、先行研究をさらに発展させ、書き言葉コーパスから 1456 例を選定し考察している。その結果、「せっかく」の連用用法において最も多いのは順接関係を表わす「のだから」との共起(原因・理由節を含めて 243 例)

しかし、いずれもそこには大差はなく、いずれも「せっかく」との強い共起関係が確認できる。「(の) だから」「のに」の他に、「せっかく」と共起する接続助詞・接続表現には、次のようなものがある。

順接系： 「のだ」「わけだ」「ものだ」「(の) だもの」「(だ) し」「て」
「ことだから」「ことゆえ」「からには」「する以上」
「(の) なら (ば)」「であれば」

逆接系： 「(の) けれど・けれども・けど」「にもかかわらず」「くせに」
「ものの」「ながら」「(した) ものを」「のを」「(した) まま」
「ところで・ところに・ところが」「するにはしたが」
「とはいえ」「からといって」
「(し) ても・でも」「たって」「(し) て」「に」「(する) と」
(小矢野 1997, 蓮沼 2012 を基に整理)

ただし、上記の形式の中には、「ても・でも」「(の) なら」を除き、共起例が少なく、僅か 1 例のみのものも含まれている。

特記すべきは、「ても・でも」「(の) なら」である。蓮沼 (2012) は「せっかく」が「ても」「(の) なら」類の条件節に使用可能か否か、共起頻度も含めて調査した結果、1456 件のうち逆条件（「ても・でも」）は 96 例で、既定条件節（「(の) なら」類の節）が 37 例と少ないが、一定の共起関係が観察された。一方、仮定条件節の「たら・ば・と」との共起が 4 例で最も少なかった¹⁷。

3.3.2 事態の「既定性¹⁸」

「せっかく」は上述のように、従属節末に順接の「(の) だから」や逆接の「のに」だけでなく、事実条件の「ても・でも」もしくは既定条件の「(の) なら」が現れる場合もある（例文 7-9）。

(7) せっかく努力しても、結局、合格できなかった。（事実条件）

であり、共起関係が顕著である。逆接関係を表わす「のに」との共起はその次に多く（229 例）、「順接＞逆接」という結果となっていて、小矢野（1997）の「逆接＞順接」という結果と異なっている。

¹⁷ 「たら・ば・と」が観察された「国会会議録」の例文について、蓮沼（2012）は「十分な推敲を経ずに書いた文章や、複雑な内容を考えながら話すような場合に生じた逸脱性をもつ表現（p. 28）」としている。

¹⁸ 「既定性（Settledness）」は、有田（2007）による概念であり、「命題の真偽が定まっている」という意味で使われている。本稿では、蓮沼（2012）に基づき、「事態の真偽が定まっていると話し手に把握されているような事態」を「既定性」を持つ事態として捉える。

(8) *せっかく努力していても、合格は無理だったかもしれない。
(反事実条件)

(9) せっかく東京に来るのなら、もっと早く連絡してくれれば
よかったのに。
(以上、蓮沼 2012 : 31-33)

ただし、蓮沼 (2012) によれば、「せっかく」が「ても」「(の) なら」と共起する (言い換えると、「せっかく」が「ても」節や「(の) なら」節で使用される) 場合、次のような制限がある。

まず、「ても・でも」節 (以下、「ても」節¹⁹) に「せっかく」が使用される場合を見てみよう。「ても」は確定した事態 (既定条件) にも未確定事態 (仮設条件)²⁰にも使われる。「ても」節に「たとえ」が使用されている (例文 10a) のと異なり、「ても」節に「せっかく」が使用される (例文 10b) のは、「現実的な状況を条件として提示しているケース (蓮沼 2012 : 34)」である²¹。つまり、例文 (10a) と違って、(10b) のような場合、命題は「現実的な状況」であり、「既定的」でなければならない。その裏づけとして、仮定的意味を表わす「たとえ」と『たとえ』のもつ『仮定性』の意味や、帰結を導く条件としての可能性の低さをさらに強調する働き (蓮沼 2012 : 34) をもつ「どんなに」は併用可能 (例文 11a) であるのに対し、「せっかく」の場合は併用不可である (例文 11b)。

- (10) a. たとえ努力してても、合格は無理かもしれない。(仮設条件)
b. せっかく努力してても、合格は無理かもしれない。(既定条件)
- (11) a. たとえどんなに努力してても、合格は無理かもしれない。
b. *せっかくどんなに努力してても、合格は無理かもしれない。
(蓮沼 2012 : 34)

また、逆条件の「ても」を逆接の「ところで」などに置き換えることができるものの、「せっかく」の前件の命題の「既定性」の要求は変わらず (例文 10' b)、一方、仮定や不可能となじむ「どんなに」と組み合わせると矛盾が生じる (例文 11' b)。このように、「ても」「ところで」など、従属節末の接続表現や節の種類より先に考慮し

¹⁹ 前田 (2009)、蓮沼 (2012) によれば、「ても」節には、「既定条件」の「ても」、「事実条件」の「ても」、「一般条件」の「ても」、そして「反復・習慣」の「ても」がある。

²⁰ 「たとえ…ても」「もし…(の) なら」のような場合、「仮設条件」である。

²¹ 「仮定性」が「限りなく希薄化した場合 (蓮沼 2012 : 34)」でもある。

なければならないのは、「せっかく」と「既定性」との関係である。

(10') a. たとえ努力したところで、合格は無理かもしれない。
(仮設条件)

b. せっかく努力したところで、合格は無理かもしれない。
(既定条件)

(11') a. たとえどんなに努力したところで、合格は無理かもしれない。(仮設条件)

b. *せっかくどんなに努力したところで、合格は無理かもしれない。(仮設条件) (以上、蓮沼 2012 : 34 より改変)

次に、「(の) なら」節に「せっかく」が使用される場合を見てみよう。渡辺 (1980) は、確定表現・確実表現を要求する「せっかく」と未実現・仮定を表わす「(の) なら」との共起はなじまないとしている。しかし、蓮沼 (2012) で指摘されているように、「せっかく」の命題 P の事態が既定的でなければならないという制限は確かだが、条件節でも、「現実的な状況」を表わす既定条件節「(の) なら」には使われるが、未確定を表わす仮定条件節「たら」「ば」の中には使われない (例文 12)。

(12) せっかくパリに { *行ったら / *行けば / 行く (の)
なら } ルーブル美術館を見たほうがいいよ。
(蓮沼 2012 : 19)

例文 (12) の「せっかくパリに行く (の) なら」のような場合は、当該の事態を蓮沼 (2012) が指摘しているように「仮定 (条件)」ではなく「既定 (条件)」(パリに行くことが決まった) でなければならない。このように、「せっかく」が「ても」節や「(の) なら」節で使用される場合、「既定条件」と見なすのが適切である。

ここまで見てきたように、「せっかく」は (1) 「話者の『見越し』の評価」を表わし、(2) 基本的に「従属節－主節」という複文の構造を要求し、(3) 「事態の『既定性』」も要求するなどといった特徴を持っている。次節から、「ただでさえ」の意味的特徴と構文的特徴を述べつつ、本節での議論に対応させて論じていく。

4. 先行研究に基づく「ただでさえ」の特徴の整理

4.1 意味的特徴

「ただでさえ」は、「普段の場合でも」の意で、「普段でもそんな

のに、普通でない状態の時はもっとそうだとすることを述べるのに使う（グループ・ジャマシイ 1998：195）」と記述（解説）されている（例文 13a, b）。「普段の場合」の他にも、「ふつうの状態でもそうであるのに（阪田・遠藤 2011：553）」（例文 13c）と記述（解説）される場合がある。

- (13) a. お父さんはただでさえうるさいのだから、病気にでもなったらああしろ、こうしろと大変だろうね。
b. ただでさえ人手がたりなくて困っているのに、こんな小さな会社で一度に三人もやめられたらどうしようもない。
（グループ・ジャマシイ 1998：195、下線は林による）
c. 急いで書いたら、ただでさえ下手な字がますますきたなくなった。（阪田・遠藤 2011：553、下線は林による）
d. ただでさえへたな字が、急いでもんだからますます読めなくなった。
e. 部長はただでさえ短気なのに、部下がへまばかりしているものだから、最近雷を落とせばなしだ。
f. （職場に自宅から電話が来た）あんまりくだらないことを言ってくるなよ。ただでさえ忙しいのに。
g. ?そんなに暑い暑い言わないでよ。ただでさえ暑いのだから。
h. そんなに暑い暑い言わないでよ。それでも暑いのだから。

（以上 d-h、例文判断も含め、飛田・浅田 2014：270 より引用。下線は林による）

さらに、現代副詞用法辞典（飛田・浅田 2014：270）では、「通常の状態が好ましくないために結果の程度が高まる様子を表す。ややマイナスイメージの語。（中略）通常の状態が好ましくない上に、別の理由が加わって結果がさらに好ましくない状態になったことについて、慨嘆の暗示を伴う。結果のほうに視点がある表現である」と、「通常」と記述されている。なお、飛田・浅田（2014）によれば、「『ただでさえ』は『それでも』に似ているが、『それでも』は前提のほうに視点があり、話者の困惑・迷惑・不快などが暗示される（p. 270）」（例文 13g, 13h）。しかし、例文（13f）を（13g）と対照してみると、基本的にいずれも「ただでさえ + 形容詞述語文」（前件）と「働きかけ・依頼文」（後件）との組み合わせである。例文（13f）が自然であるのに対して、（13g）が不自然であるということに関しては、詳しい解説はなされていない。

林（2013a）は、作例のみならず、コーパスなどから収集した大量

の実例に即して考察を行なったところ、「普段」「普通」「通常」という概念だけでは、次のような例文の場合、説明しきれない部分があり、そのため、「現在の状態」（状態性）という概念で説明する必要があることを提示している。

(14) a. まずい！壊しちゃった！お母さんに怒られる。ただでさえ今日は何度も怒られてるのに！

(さくらももこ原作、アニメ『ちびまる子ちゃん』#918)

b. 横手高校（横手市）は今年、3年生280人のうち9割以上がセンター試験に出願。ほとんどの生徒が前日から秋田市へ入る予定だ。「期間中は落ち着かないので、友達といられるのは心強い」と喜ぶ生徒もいるが、「ただでさえ緊張しているのに、寝床が変われば余計眠れないのでは」と心配する生徒も。ホテルに2泊する場合、計3万円ほどの交通、宿泊費も各人の負担になる。（朝日新聞 2005.11.23）

例文(14a)では、「今日は何度も」とあり、「今日は何度も怒られている（現在の状態 P）」をベースに「（扇風機を壊してしまって）さらに怒られる（さらなる状態 Q）」への変化の予測がポイントであって、ここでは「普段」とは直接関係がない。例文(14b)の場合に関しても、「普段から緊張している」または「それだけでなくも緊張している」と解釈するよりも、「試験日まで残り時間が少なく本番に臨んで緊張している（現在の状態 P）」から「慣れない町に泊まることでさらに緊張する（さらなる状態 Q）」への変化の予測と見なしたほうが原文の本来の意味をより正確に表している。なお、「（もっと）怒られる」や「さらに緊張する」などは、発話の時点ではまだ実際に起きていないため、「ただでさえ」の「前件—後件」は過去の出来事だけでなく、後件の命題はこれから起こると予測される出来事にも使われる。

このように、「ただでさえ」の命題間に「現在の状態 P」から、「さらなる状態 Q」へと「逦増(increment)」もしくは「逦減(decrement)」²² するという意味的対応関係がある。なお、「現在の状態 P」は、「緊

²² 林(2013a)では、「増幅」「減幅」と記述しているが、本稿では同じ意味として「逦増」「逦減」という用語を用いる。「逦増(する)」「逦減(する)」は本来、主に数字や数値に用いられるが、ここでは一般的な意味に拡張して用いる。

張する」「怒られる」など、話者によってマイナス評価が行なわれる傾向があるが、実際には例文（15a, b）のように、プラス評価が行なわれることも少なからずある（林 2013a : 382-383）。

(15) a. ただでさえ幸福の青い鳥が見られて幸せでしたが、4羽のひなたちが無事に巣立つのを見て、さらに幸せな気分になりました。
(朝日新聞 2012.6.20)

b. アメリカでは今、女子サッカーの人气が高く競技人口が多いので、エリート中のエリートが出場しているはずですし、ただでさえ日本は奇跡的勝利の連続だったのだから、今度こそライオンに喰われてしまうウサギさんたちを見せつけられるのではないかと、ヒヤヒヤしていました。だからPK戦まで行った時はもう信じられませんでした。

(読売新聞 2011.7.22)

上記の現象は、逸脱的と捉えることもできるが、言語変化（例えば、「全然 + 述語の肯定形」）の観点からも分析することができるだろう。今後引き続き用例を収集し、分析する必要がある。

「せっかく」と「ただでさえ」の意味的特徴の共通点に関しては4.3で後述し、次項から「せっかく」と共通する「ただでさえ」の特徴を紹介していく。

4.2 構文的特徴

4.2.1 複文の構造

「ただでさえ」は「現在の状態P」（前件）から「さらなる状態Q」（後件）への「通増／通減」という意味的対応関係を表さなければならないため、基本的に「従属節—主節」という複文の構造を要求する。「ただでさえ」は、複文の主節や、単文に生起することができない（例文 16a-d）。「せっかく」にも関係しても同じである（例文 17a-d）。

(16) a. *お父さんはうるさいのだから、ただでさえうるさい。

b. *人手が足りなくて困っているのに、ただでさえ困る。

c. *お父さんはただでさえうるさい。

d. *ただでさえ人手がたりなくて困っている。

(例文 13 より改変)

(17) a. *せっかく彼が帰った。

b. *せっかく桜の花が咲いた。

c. *彼が帰ったのだから、あとはせっかく我々で思う存分楽しくやろうよ。

- d. *桜の花が咲いたのに、せっかく一晩で散ってしまった。
(蓮沼 1987: 205, 例文 3a-b, 5a-b の再掲)

例文 (16c, d) (17a, b) は、前後の文脈のない単文である。「前件—後件」の意味関係が不明瞭であるため、非文である²³。

さらに、「ただでさえ」は、複文の構造であっても、意味上、例えば例文 (18a) のように前件の「十分暑い」と後件の「もっと暑い」という組み合わせや、例文 (18b) のように前件の「十分緊張している」と後件の「余計眠れない」という組み合わせによる意味的要請が満たされなければならない。

- (18) a. ただでさえ暑いんだから、暑いって言ったら、もっと暑くなっちゃうよ。 (あらゐけいいち原作、NHK『日常』)
b. ただでさえ緊張しているのに、寝床が変われば余計眠れないのでは。 (例文 14b の再掲)
c. *ただでさえ暑いんだから、暑いって言ったら、なぜか暑くなくなった。
d. *ただでさえ緊張しているのに、ぐっすり眠れた。

林 (2010, 2013a) は、コーパス (小説、新聞データベースなどを含む) を利用し「ただでさえ」の用法を次のようにまとめている。

<典型的な用法>

- 用法 (1) [[ただでさえ + 述語] + 逆接を表す接続表現ノニ、(ノ)ダガ] という従属節における用法
用法 (2) [[ただでさえ + 述語] + 順接を表す接続表現ノデ、(ノ)ダカラ] という従属節における用法
用法 (3) 原因・理由を表す接続助詞タメ、ダケニ、累加を表す接続助詞ニ加エ、ウエ (ニ)、シと共起する用法 (用法 (1) (2) の発展形)

<非典型的な用法>²⁴

- 用法 (4) [[ただでさえ + 述語] + 名詞句] のように接続助詞を省略し連体修飾節の中に起きる用法
用法 (5) [ただでさえ + 述語] が (擬似、見せかけの) 単文として起きる用法 (林 2013a)

上記のように、「せっかく」と同じく、「ただでさえ」も基本的に「順接」「逆接」「圧縮」という三つの用法があることが確認できる。

²³ 日本語ネイティブの個人差によっては、(16c, d) (17a, b) のような単文を自ら後件などの意味を加えて解釈し、不自然だが非文ではないと答える場合もあるが、ここで注意すべきは、(16c, d) (17a, b) はあくまで前後の文脈なしの単文である。

²⁴ 書き言葉 (新聞記事、小説、台詞など) に多用される傾向がある。

4.2.2 非典型的な用法について一見せかけの単文

「せっかく」の「圧縮用法」を、「ただでさえ」の「非典型的な用法」(用法4と5)を比較してみると、類似した連体修飾用法が観察される。「ただでさえ」の「非典型的な用法」には、次のような例文がある(例文19a-c)。

- (19) a. 改正法では本人の提供意思が不明な場合、提供の判断は家族に委ねられるが、突然の悲報を受け、冷静な選択をするのはただでさえ難しい。家族は本人の意思を知っておいた方が悩みは少なく、臓器提供意思表示カードに提供意思の有無を書いておくことはこれからも重要だ。

(読売新聞 2010.7.15)

- b. 「(嘆き) もういいでしょう。あなたのように授業の進行を妨げる生徒のせいで、このクラスはただでさえ遅れているんです。さあ、次へ進みますよ。」(NHK「花子とアン」22話)

- c. ただでさえ栄養豊富な納豆に、コラーゲンが加わることで、どこまで健康的な食品になるのだろうか。

(エキサイトニュース 2005.11.28)

上記の例文は、いずれも「典型的な用法」の構造と異なり、順接ないし逆接を表す接続助詞(接続表現)を用いた明示的な複文の形をとっていないものの、依然として、「現在の状態 P—さらなる状態 Q」という前後の意味的対応関係を要求している(表1)。

前件(現在の状態 P)		後件(さらなる状態 Q)
判断が難しい	突然の悲報を受けると	冷静な選択がさらに難しい
授業が遅れている	あなたがいて妨害すると	さらに遅れる
栄養豊富	コラーゲンが加わると	どこまで健康的になるのか

表1 命題間の意味的対応関係の整理

ここで特筆すべきは、(19a, b)のような例文である。先行研究で議論されたように、「ただでさえ」は、基本的に主節には現れない。しかし、(19a, b)の「ただでさえ」は、主節に現れているように見える。例文(19a, b)は、それぞれ新聞記事と脚本(ドラマの台詞)であり、熟考して書かれたと考えられ、国会会議録のような「十分な推敲を経ずに書いた文章や、複雑な内容を考えながら話すような場合に生じた逸脱性をもつ表現(蓮沼 2012: 28)」と異なっているとも考えられる。表1のように前後の意味的対応関係を整理すると、

例文 (19a, b) の「冷静な選択をするのはただでさえ難しい」、「このクラスはただでさえ遅れているんです」の場合、一見主節に現れているように見えるが、いずれも前件（現在の状態 P）に置くことのできる叙述内容（従属節にあたる部分）でなければならない。言い換えると、後件（さらなる状態 Q、主節にあたる部分）に置くことのできない叙述内容なのである。

上記の現象に関連して、3 節でも議論したが、「せっかく」の場合も、「従属節—主節」の複文の構造が圧縮され、連体修飾節の形をとる場合があり（例文 20 a-c）、すべて複文の構造に復元することができる（例文 21 a-c）。

- (20) a. 同市産業振興課商工観光班は「せっかく作っていただいたキャラクター。キャラ総選挙を通じて認知度を少しでも上げたい」としている。
（読売新聞 2014. 5. 4）
 b. せっかく泡立てたメレンゲをつぶさないように。
（読売新聞 2013. 7. 4）
 c. せっかく大事にしている野菜を枯らしてしまうものもあるくらいです。
（芥川龍之介「不思議な島」）
 (21) a. せっかく作っていただいたキャラクター （なの）だから、キャラ総選挙を通じて認知度を少しでも上げたい。
 b. せっかくメレンゲの泡立てができたのだから、つぶさないように。
 c. せっかく大事にしている野菜なのに、枯らしてしまうものもあるくらいです。
（以上、例文 6'a, c, d の再掲）

以上のように、「せっかく」の「圧縮用法」や、「ただでさえ」の「非典型的な用法」では、「せっかく」も「ただでさえ」も一見したところ単文に現れているように見えても、実際には、「従属節—主節」に復元可能であり、「前件—後件」の命題間の意味的対応関係も維持されなければならないのである。

4.3 従属節の意味的特徴

4.3.1 接続助詞・接続表現の形式の種類

林 (2013a) では、話し言葉コーパス²⁵、新聞記事データベース²⁶、

²⁵ 現代日本語研究会編 (1997) 『女性のことば・職場編』、同研究会編 (2002) 『男性のことば・職場編』、名大会話コーパスがある。

²⁶ 「聞蔵Ⅱビジュアル」で 1985 年度以降の記事が検索可能である。

小説²⁷などから、「ただでさえ」の用例を調査した結果、合計 3609 件のうち、逆接の「のに」との共起が 738 件で最も多く、共起傾向が顕著である²⁸。それに対して、順接（原因・理由）の「のだから」との共起は僅か 26 件であった²⁹。小矢野（1997）と蓮沼（2012）の「せっかく」の調査結果に比べると、「ただでさえ」は「のに」との共起に偏っていることが分かった。

なお、「ただでさえ」の「現在の状態 P」から「さらなる状態 Q」へと「通増／通減」するという意味の影響を受けているためか、累加を表わす接続助詞・接続表現との共起傾向もある程度見られ、種類も多い。「上（に）」が 96 件、「に加えて」が 18 件、「し」が 8 件である。「し」を除き、いずれも「せっかく」との共起が観察されない接続助詞・接続表現である。

4.3.2 事態の「既定性」

3.3.2 で見てきたように、「せっかく」は「ても」「(の) なら」と共起する（または「ても」節、「(の) なら」節で使用される）ことがあっても、「仮設条件」ではなく「既定条件」と見なすのが適切である（蓮沼 2012）。

「既定性」の概念は「ただでさえ」にも当て嵌まるのか。林（2013a）での用例調査結果では、「ただでさえ」と「ても」「(の) なら」との共起は見られなかった。林（2013a）でも取り上げたが、「さえ」の用法（例文 22a）と異なって、「ただでさえ」は条件節「ば」の中には現れない（例文 22b, 22c）³⁰。

(22) a. これさえあれば、何もいらない。

(Microsoft Surface タブレット)

b. *ただでさえこれがあれば、何もいらない。

²⁷ 青空文庫。

²⁸ その他、同じく逆接を表わす「が・けど」との共起が 55 件である。

²⁹ その他に「から・ので」が 55 件、「ため」が 23 件、「だけに」が 38 件。

³⁰ 例文（22c）のような文章は、新聞記事でよく観察される。この場合、「ただでさえ」は条件節の中に入っているのではなく、「米価が下がると言われているのに（現在の状態 P）」を修飾し、「価格の下落が進む（さらなる状態 Q）」という前件と後件の組み合わせによる意味的要請が満たされているのである。

- c. 「ただでさえ T P P（環太平洋パートナーシップ協定）に加盟すれば、米価が下がると言われているのに、減反が廃止され生産量が増加すると、価格の下落が進むのは確実。これでは農家に追い打ちをかけるようなものだ」と憤る。
（毎日新聞 2013. 11. 27）

「ただでさえ」は、なぜ仮定と相容れないのか。「ただでさえ」の意味に基いて考えると、前件の「現在の状態 Q」という参照点（reference-point, 山本 2005）¹がはっきりしていなければ、後件の「さらなる状態 Q」について言い表すことができない。そのため、「ただでさえ」の「現在の状態 Q」（前件）は必ず既定的な事態でなければならないと考えられる。なお、蓮沼（2012）が明らかにした「せっかく」と「事態の『既定性』」との関係は「ただでさえ」にも当て嵌まる（例文 23）。

(23) ただでさえ { ??暑いなら / *暑かったら / *暑ければ / *暑いと }、暑いって言ったら、もっと暑くなっちゃうよ。

（例文 18a より改変。例文判断は日本語ネイティブによる）

「せっかく」は既定条件を表わす「なら」と共起する場合があるのに対して、「ただでさえ」は「なら」と共起するかどうかということとなると、日本語ネイティブによる例文判断の見解の不一致があったため、本稿では不自然とする。

ここまで、先行研究に基づいて、両者の意味的特徴と構文的特徴をはじめ、複文の構造、従属節の中の特徴や、接続助詞・接続表現の形式の種類と共起傾向、さらには事態の「既定性」を見てきた。

「『せっかく』などが、『話者の評価』を表わす、という意味的特徴をもつことは、多分共通に言える」と渡辺（1980：33）で述べられているように、「ただでさえ」も「話者の評価」を表わしていると考えられる。

しかし、それぞれが表わしている叙述内容に対する話者の評価は、あくまで異なっているものであり、それぞれ違う制限もある。具体的にどこが異なっているのか。次節では、これに関連して、両者の相違について議論する。

5. 相違

5.1 「動作性」と「状態性」

「せっかく」と「ただでさえ」の従属節の述語の部分を観察すると、次のような意味的制限が観察される。

まず、「せっかく」に関しては、従属節には形容詞が現れる場合もあるが、主に動作動詞が現れる（例文 24a-d）。

- (24) a. せっかく行ったのに留守だった。 (渡辺 1980 : 32)
b. せっかく得意の料理を作ったのに、彼は食わずに帰ってしまった。 (渡辺 2001 : 34)
c. 今年の秋冬はせっかくきれいにしたカーテンをカビさせないよう、いろんな工夫を今から考えておいてくださいね！ (読売新聞 2013. 3. 7)
d. せっかく楽しいランニングをしても、けがをしたら何にもなりません。 (読売新聞 2014. 2. 19)
e. せっかく高いのに宝の持ち腐れ状態になります。
(mini4wd.jp/36717/diary/2010031122474431024、黄 2010 より引用)
f. 今日は暑かったですね。せっかく暑いのですから、存分に夏を楽しみたいです。
(シーニックバイウェイ北海道 Facebook ページ)

黄 (2010) によれば、「副詞『せっかく』の P に位置するものの多くは、人間の行為またはその結果を内容とするものであるが、形容詞が立つこともまれに見られる」(例文 24e)。例文 (24f) のように自然現象に使われる場合もあるが、ほとんどの場合、人間の行為またはその結果に使われる。

それに対し、「ただでさえ」の場合、その直後に、動作ではなく、状態がはっきりしている形容詞 (例文 25a)、状態動詞 (例文 25b)、形容詞的成分を含む名詞 (例文 25c) など、「静的述語」(状態性)との強い修飾関係が観察される。単なる動作を表わす動詞 (例文 26a) や「名詞+動作動詞」(例文 26b) は後接しない。

- (25) a. ただでさえ暑いんだから、暑いって言ったら、もっと暑くなっちゃうよ。 (例文 12a の再掲)
b. ただでさえ緊張しているのに、寝床が変われば余計眠れないのでは。 (朝日新聞 2005. 11. 23)
c. ただでさえハイリスクなのに。ぷくぷく太っている場合じゃない。 (朝日新聞 2011. 3. 7)
(26) a. *ただでさえ話したのに、さらにもう一回話したら大変なことになった。

- b. *ただでさえ料理を作ったのに、さらに追加注文が増えて大変だった。

例文 (26) のように、状態度の低い動作、とりわけ動作動詞³¹だけでは、その動作（例えば上例文 26a の「話す」）がどのような状態なのかははっきりしていない。たとえ「話す」と「もう一回話す、二回、三回…」などといった意味的対応関係があっても、文法的に不自然である。文法性を高くするためには、述語の部分の「現在の状態³²」がどのような状態なのかを明確にする必要がある。「話す」のような動作動詞の他、「現在の状態」がはっきりしない名詞や動詞（一回性の出来事）のみが後接する時も、文法的に不自然な文となる。例文 (27a) (28a) のように「分厚い本」「痩せっぽちの体」は、いずれも状態がはっきりしているのに対して、(27b, c) (28b, c) のような場合、状態の修飾成分が取り外されると、名詞だけでは、「本」や「体」がそれぞれどのような状態なのかははっきりしない。「分厚い—さらに分厚い」、「痩せっぽち—（もっと）ガリガリ」といった意味的対応関係を見いだすことができなければ非文となる。

- (27) a. ただでさえ分厚い本なのに、しおりやメモなどいろいろ挟んで、さらに分厚くなった。
b. *ただでさえ本なのに、さらに分厚くなった。
c. *ただでさえの本なのに、さらに分厚くなった。
(28) a. ただでさえ痩せっぽちの体なんだから、ダイエットなんかしたらガリガリになっちゃうよ。
b. *ただでさえ体だから、ガリガリになっちゃうよ。
c. *ただでさえの体だから、ガリガリになっちゃうよ。

5.2 プラス評価とマイナス評価³³

「せつかく」の「価値あり P」は「ポジティブな事態」に対する「プラス評価」である。これは、森田 (1989) が記述している通り、

³¹ 状態を修飾せず、単に動作を表わす動詞。

³² グループ・ジャマシイ (1998) では、「普段の場合」および「普通の状態」とあるが、「普段（の状態）」の他、「現在の状態」の例もコーパスで大量に観察されたため、本稿では「現在の状態」と記述する。

³³ 査読委員会のご指摘の通り、「プラス評価」と「マイナス評価」は広い概念ではあるが、「話者の評価」を表す個々の副詞を浮彫にして対照的に示す（蓮沼 1987）時には有効な概念であると考えられる。

『せっかく』で表される以上、それは話し手にとって価値ある事態と受け止められている。好ましくないと受け止めている事柄の場合には『せっかく』を使うことはできない (Pp. 586-587)」。実際、「病気になる」(例文 29a) や、リスクを伴う「自宅出産」(例文 29b) のような場合でも、「価値ある事態」と評価することができる。

- (29) a. 「わたしが取り戻すわたしのからだ～せっかく病気になる
たんだから～」 (読売新聞 2014. 6. 12)
b. 「長女に『どうする?』って聞いたら、最初は『こわいかなあ』と言っていたんですが、最終的には立ち会いたいと言ったんですね。長女もそう言っているし、せっかく自宅出産しているのに長女だけどこかに行っているのでは疎外感を感じてしまうかなと、みんなで一緒にやっているんだって思えることが長女にとってもいいかなと思ったんです。」 (読売新聞 2012. 3. 1)

それに対し、「ただでさえ」の場合、「現在の状態 P」は基本的に「ネガティブな事態」に対する「マイナス評価」が行なわれるが、本稿前掲の例文「幸福の青い鳥」(15a) や、「奇跡的勝利の連続」(15b) のように、プラス評価が行なわれることも少なからずある。

5.3 従属節末における順接と逆接の制限

「せっかく」は前件 (価値あり P) を評価する性質を持っている。後件 Q の形によって、従属節末に逆接の「のに」と共起するか順接の「のだから」と共起するか異なってくる (例文 30a-d)。例文 (31) のような場合、順接での解釈 (31a) と逆接での解釈 (31b) が可能だが、読みが異なっていて、順接か逆接かのどちらかがはっきりしている。また、後件 (練習すること) が「『未実現』の事態」もしくは「『実現が期待される』事態」であるという制限に変わりはない。

- (30) a. せっかく 高雄に来たのに、糖廠に行かずに帰ってしまった。
b. *せっかく 高雄に来たのだから、糖廠に行かずに帰ってしまった。
c. せっかく 高雄に来たのだから、糖廠に行こうよ。
d. *せっかく 高雄に来たのに、糖廠に行こうよ。
(31) a. せっかく チームを作ったんだから、練習しなきゃ意味ないでしょう。
(藤子・F・不二雄原作、アニメ『ドラえもん』2014. 6. 20 放送分)

- b. [[「せっかくチームを作ったのに」、練習しな（い）]]きゃ意味ないでしょう。]

それに対し、「ただでさえ」は、はっきりした逆接や順接の関係が見られるもの（例文 32 b）もあれば、はっきり見られない、または逆接と順接両方の解釈が可能な場合（例文 33-34）も観察される³⁴。

- (32) a. 鳥インフルエンザ騒動はここ一カ月、新たな発生がなく、沈静化している。しかし、卵はただでさえ値段が下がっているし、売れない。（朝日新聞 2004. 4. 11）
b. しかし、卵はただでさえ値段が下がっている {のに / ??のだから}、売れない。
- (33) a. ただでさえ寂しい思いをしていた上に、だめ押しともいえる年賀状が来なかった新年の寂しさは、今も忘れることができない。（朝日新聞 2012. 11. 29）
b. ただでさえ寂しい思いをしていた {のに / のだから}、だめ押しともいえる年賀状が来なかった新年の寂しさは、今も忘れることができない。
- (34) a. 「ただでさえ経営はギリギリ。今の 2 倍の消費税なんて、どうやって払えば……」。（毎日新聞 2012. 11. 25）
b. ただでさえ経営はギリギリな {のに / のだから}、今の 2 倍の消費税なんて、どうやって払えば……。

「せっかく」の場合、「価値あり P」と「実現せず（じまい）Q」の間の意味的關係は、例文（30a, b）が示すように、逆接でしか表せない。また、「価値あり P」と「実現に値する Q」の間の意味的關係は、例文（30c, d）が示すように順接でしか表せない。このように、「せっかく」については、順接か逆接かによって後続の節の内容が異なるのに対し、「ただでさえ」については必ずしもそうではない³⁵。

6. 今後の課題

本稿では、先行研究の整理と新たな実例に基づいて、「せっかく」と「ただでさえ」の意味的・構文的特徴を比較することを通して、両者が共有している特徴と、相違点を明確に示した。最後に、今後の課題について説明する。これまで「せっかく」をはじめ、渡辺（1980）、

³⁴ 小矢野（1997）によれば、「せっかく」の例文の中にも「うらめ（逆接）・まさめ（順接）両方に解釈できるもの」があるが、458 例のうち 5 例と僅かであった。これについては今後の課題とし、大規模のコーパスデータで調査する。

³⁵ 「ただでさえ」の場合、P と Q の間に、逆接でも順接でも接続できる現象についても、複文の課題として引き続き考察していきたい。

蓮沼（1987）では「いっそ（いっそう、いっそのこと、いっそのこと）」「せめて」「どうせ」「さすが（さすがに）」「やはり（やっぱり）」「なまじ（なまじっか）」も議論されてきたが、「せっかく」と同じように複文の構造を要求しているかどうか、内省のみならず、コーパス調査を通して明らかにする必要がある。

上記の他に、西（2005）では、（１）話者の価値判断に基づく前提をもつ、（２）必ず従属節に生起し複文構造を展開する、（３）主節の内容（モダリティ）に制限を与えるという三つの基準で、「あまり＋肯定形」「いくら」「どんなに」「もし」を取り上げている。しかし、上記の四つの副詞はどれも「のに」「のだから」と共起できず、さらに蓮沼（2012）が指摘している『『せっかく』と事態の『既定性』との関係』に抵触するものも含まれている。そのため、西（2005）の基準の有効性を認めつつも、副詞の選定の仕方についても再考する必要があると考えている。

本稿での「せっかく」と「ただでさえ」の先行研究の整理と比較対照を踏まえ、今後、「既定性」を軸に、他に類似している特徴を持つと思われる個々の副詞の比較・対照を行なっていきたい。また、本稿冒頭で触れた『『見越し』の評価を表わす副詞』（渡辺 1980）、「複雑な用法を持つ副詞の一群」（蓮沼 1987）の全貌を明らかにすることを最終目的とする。そのためには、この類の副詞をいくつか選定し、個々の副詞の中核的な性質と周辺的な性質を引き続き明らかにする必要がある。

参考文献

- 赤羽根義章（2002）『『せっかくですが』と『あいにくですが』』宇都宮大学国語教育学会『宇大国語論究』13、宇都宮、pp. 1-9。
有田節子（2007）『日本語の条件文と時制節性』、東京、くろしお出版。
石神照雄（1982）「様相副詞『セツカク』と構文構造」信州大学教養部『信州大学教養部紀要』16、松本、pp. 1-13。
板坂元（1971）『日本人の論理構造』、東京、講談社。
呉珠熙（2011）「『せっかく』の持つ前提と共起制限の関わりについて：韓国語の副詞『mocheoreom, ilkkeott』との対照を兼ねて」九州国際大学教養学会『教養研究』18(2)、北九州、pp. 33-51。

- 加藤由紀子 (2001) 「<せっかく～のに>文の誤用とその背景」 岐阜大学留学生センター『岐阜大学留学生センター紀要』2000、岐阜、pp. 25-37。
- 河原崎幹夫 (1976) 「副詞の導入の具体的研究 2 : 『せっかく』・(付『わざわざ』)」 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校『日本語学校論集』3、東京、pp. 79-90。
- グループ・ジャマシイ (1998) 『日本語文型辞典』、東京、くろしお出版。
- 黄淑燕 (2010) 「『せっかく』の意味用法について」 東海大學日本語文學系国際學術研討会會議論文集『副用語のいろいろ一語義・対照・教授法』2010、台中、pp. 41-59。
- 黄淑燕 (2010) 『日語類義表現』、台北、鴻儒堂出版社。
- 小矢野哲夫 (1997) 「副詞『せっかく』の用法」 大阪外国語大学日本語講座『日本語・日本文化研究』17、大阪、pp. 1-16。
- 阪田雪子監修・遠藤織枝編集主幹・にほんごの会編集 (2011) 『日本語を学ぶ人の辞典』、東京、新潮社。
- 田野村忠温 (2004) 「周辺性・例外性と言語資料の性格—その相関の考察—」 『日本語文法』4-2、東京、くろしお出版、pp. 24-37。
- 西真理子 (2005) 「話者の前提と陳述副詞 : 従属節に生起する副詞を例に」 北海道大学留学生センター『北海道大学留学生センター紀要』9、札幌、pp. 39-52。
- 日本語記述文法研究会編 (2008) 『現代日本語文法 6 第 11 部複文』、東京、くろしお出版。
- 野田春美 (1995) 「『のだから』の特異性」 仁田義雄 (編) 『複文の研究 (上)』、東京、くろしお出版、pp. 221-245。
- 星野佳之 (2001) 「『どうせ』と『せっかく』の意義—『無駄』の回避」 ノートルダム清心女子大学日本語日本文学会『清心語文』3、岡山、pp. 95-105。
- 蓮沼昭子 (1987) 「副詞の語法と社会通念—『せっかく』と『さすがに』を例として—」 小泉保教授還暦記念論文集編集委員会『言語学の視界』、東京、大学書林、pp. 203-222。
- 蓮沼昭子・有田節子・前田直子 (2001) 『日本語文法 セルフ・マスターシリーズ 7 条件表現』、東京、くろしお出版。
- 蓮沼昭子 (2012) 「事態の既定性と『せっかく』構文」 創価大学日本語日本文学会『日本語日本文学』22、東京、pp. 19-41。
- 飛田良文・浅田秀子 (2014) 『現代副詞用法辞典 七版』、東京、東京堂書店。
- 益岡隆志編 (1993) 『日本語の条件表現』、東京、くろしお出版。
- 前田直子 (2009) 『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究—』、東京、くろしお出版。
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語』、東京、角川書店。
- 山本雅子 (2005) 「参照点能力と言語現象—『せっかく』—」 愛知大学国際コミュニケーション学部、国際コミュニケーション学会『文明 21』14、愛知、pp. 11-26。

- 林恒立 (2010) 「ただでさえ」の用法の一考察」 ICJLE 2010 世界日本語教育大会論文集・予稿集 DVD、台北、大新書局。
- 林恒立 (2013a) 「『ただでさえ』の副詞的意味と構文—『さえ』と『ただ』の対照を交えて—」 台湾日本語教育学会『台湾日語教育學報』21、台北、pp. 357-386。
- 林恒立 (2013b) 「『ただでさえ』と『せっかく』の構文的・意味的特徴—類似性と相違点—」 台湾日本語教育学会『2013 年度國際學術シンポジウム大会論文集』、台北、pp. 47-56。
- 渡辺実 (1980) 「見越しの評価『せっかく』をめぐって—国語学から言語学へ—」『月刊言語』9-2、東京、大修館書店、pp. 32-40。
- 渡辺実 (2001) 『さすが！日本語』東京、筑摩書房。

< 付記 >

本稿は、2013 年 11 月 30 日に行なわれた台湾日本語教育学会 2013 年度國際學術シンポジウム（台湾日本語教育学会・東吳大学日本語文学系共催、於：東吳大学）での口頭発表の内容に基づき、修正・加筆しまとめたものである。指導教員の上田雅信先生と飯田真紀先生をはじめ、コメンテーターの蘇文郎先生、多くの先生方にお世話になった。また、本稿投稿・修正期間中、査読委員の先生方から貴重なご指摘をいただいた。この場を借りて改めて感謝を申し上げたい。いつもながら、本稿における不備はすべて筆者の責任であり、henglilinguistics@gmail.com までご指摘いただけると幸いである。

< 用例出典 >

本稿で使用されている用例の出典は各例文の後に付記する。出典が明記されていない例文は筆者による作例や改変であり、すべてネイティブチェック済みである。日本語の校閲を快諾してくださった今泉智子氏に感謝いたす。